



令和 5 年 2 月 16 日

三豊市議会議長 浜口 恭行 様

議会活性化特別委員長 込山 文吉

## 委 員 会 調 査 報 告 書

本委員会に付託された事件について、調査の結果を下記のとおり、三豊市議  
会会議規則第 110 条の規定に基づき報告します。

### 記

#### 1 調査事件

	視察先	調査事項
①	神奈川県藤沢市議会	ワールドカフェ形式による議会報告会について
②	埼玉県川越市議会	議会ハラスメント根絶条例について
③	愛知県岩倉市議会	議会活性化の取り組みについて
④	三重県四日市市議会	議会 ICT について

#### 2 研修者

委員長 込山 文吉  
副委員長 市川 洋介  
委員 為広 員史 城中 利文 丸戸 研二 高木 修  
田中 達也 金子 辰男 瀧本 哲史 (9 名)  
事務局(随員) 松岡 大輔

#### 3 欠席者

委員 西山 彰人

#### 4 調査の経過及び概要(別紙 1)

#### 5 委員所感(別紙 2)

## ① 神奈川県藤沢市議会

- (1) 日時 令和 4 年 11 月 14 日（月）午後 2 時 30 分から午後 4 時 20 分まで
- (2) 調査案件 『ワールド・カフェ形式による議会報告会の取り組みについて』
- (3) 対応者
  - ・ 藤沢市議会広報広聴委員長 竹村雅夫 氏（あいさつ）
  - ・ 藤沢市議会事務局議事課長 浅上修嗣 氏（市の概要説明）
  - ・ 藤沢市議会事務局議事課 後藤美緒 氏（司会）

### (4) 調査の経過

藤沢市役所第 1 議会委員会室において、竹村広報広聴委員長及び込山委員長のあいさつの後、浅上議事課長より藤沢市の概要について、また、竹村広報広聴委員長よりワールド・カフェ形式による議会報告会について説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に市川副委員長がお礼のあいさつを行った。

### (5) 調査結果

視察の前日（11 月 13 日）に調査案件であるワールド・カフェ形式による議会報告会「カフェトークふじさわ」が開催され、その会場で視察を行った。

藤沢市議会では、これまで議会報告会や意見交換会を開催してきたが、参加者の固定化、若者の参加者の減少、市政に対する苦情が多いことなど課題があった。そこで新たな取り組みを協議する中で専門家（大学教授）のアドバイスを受け、すべての人が気楽に参加し、和やかな雰囲気意見交換を行うことを目的として、平成 28 年度から「カフェトークふじさわ」を行っている。近年では、対象者を小学生以上として幅広く意見を聴いている。

藤沢市議会のワールド・カフェ形式は、小グループに進行役を置き、メンバーを代えながら話し合い、ファシリテーター（会議の舵取り役）が会議をまとめる手法であるが、議員がファシリテーターになれるようにすることが今後の課題になっている。



▲「カフェトークふじさわ」が行われた会場での視察の様子

## ② 埼玉県川越市議会

- (1) 日時 令和 4 年 11 月 15 日（火）午前 10 時 05 分から午前 11 時 32 分まで  
 (2) 調査案件 『議会ハラスメント根絶条例について』

(3) 対応者

- ・川越市議会議長 小野澤康弘 氏（あいさつ）
- ・川越市議会事務局副事務局長兼議事課長 黒澤博行 氏（説明）
- ・川越市議会事務局議事課主査 中村悟史 氏（司会）

(4) 調査の経過

川越市議会において、小野澤康弘議長のあいさつ、込山委員長のあいさつ  
 の後、黒澤副事務局長（議事課長）よりハラスメント根絶条例制定の経緯と  
 質問事項の回答について説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に市  
 川副委員長がお礼のあいさつを行った。

(5) 調査結果

平成 30 年 9 月定例会の会期中に、被害女性から議長に弁護士を通じて「議  
 員によるハラスメント行為に対する嚴重注意及び再発防止」の申入れがあっ  
 たことが条例制定の発端であった。その後、事実確認のため第三者委員会を  
 設置し、調査結果を受けて、ハラスメント根絶に関する決議を可決、3 月定  
 例会で根絶条例が制定された。地方自治法には、議会の付属機関としての第  
 三者委員会の設置に関する定めはないが、根絶条例に規定し、設置の根拠と  
 している。

申入れから半年の間に、代表者会を 5 回、第三者委員会を 16 回、議員倫理  
 条例策定会議を 10 回開催している。また、平成 30 年度からハラスメントに  
 関する研修を毎年開催し意識の向上を図っている。なお、根絶条例制定後か



▲川越市議会の視察の様子

ら今日までに議員と職員の間でハラス  
 メントに関する問題は発生していない。

ハラスメントは相手の受け取り方次  
 第であり、何気ない行動や言葉によっ  
 て相手が不利益を被ることのないよう  
 議員のコンプライアンス意識の向上が  
 必要となる。

### ③ 愛知県岩倉市議会

- (1) 日時 令和 4 年 11 月 16 日（水）午前 8 時 54 分から午前 10 時 20 分まで  
 (2) 調査案件 『議会活性化の取り組みについて』

(3) 対応者

- ・岩倉市議会議長 伊藤隆信 氏（あいさつ）
- ・岩倉市議会副議長 関戸郁文 氏（あいさつ）
- ・岩倉市議会議員 宮川隆 氏、水野忠三 氏、鬼頭博和 氏  
片岡健一郎 氏、梅村均 氏
- ・岩倉市議会事務局統括主査 寺澤 顕 氏（司会）

(4) 調査の経過

岩倉市役所 7 階委員会室において、岩倉市議会伊藤議長及び込山委員長のあいさつ、自己紹介の後、関戸副議長より事前に提出した質問の回答について説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に市川副委員長がお礼のあいさつを行った。

(5) 調査結果

岩倉市議会は、ホームページを活用して予算・決算に対する意見を募集している。件数としてはまだ少ないが、得られた意見は所管委員会で執行部から回答をもらう仕組みであり、政策提言につなげた事例はまだないとのことである。ホームページ以外では、コロナ禍以前は議会力向上を目的として意見交換会を年 20 回実施し、市民や団体から意見をもらっていた。

一般質問では、議員が作成した資料を使用している。枚数は 50 枚まで。新聞記事等は著作権に注意が必要となり、自分が写った写真は自粛している。

常任委員会の審議内容を映像配信しているが、編集は行わず、そのまま配信している。機器は一般的なデジタルカメラを使用し、配信にはできるだけ手間がかからないようにしている。

その他の取組として、委員会の代表質問、議会サポーター制度、定例会ごとに設ける議会基本条例推進協議会による議会の活性化や議会基本条例検証特別委員会による基本条例の見直しを行う取組も行っている。



▲岩倉市議会の視察の様子

## ④ 三重県四日市市議会

(1) 日時 令和 4 年 11 月 16 日（水）午後 1 時 28 分から午後 1 時 45 分まで

(2) 調査案件 『議会 I C T について』

(3) 対応者

- ・ 四日市市議会議員 森川 慎 氏（あいさつ）
- ・ 四日市市議会議員 小田あけみ 氏
- ・ 四日市市議会事務局議事課 課長 西口佳徳 氏
- ・ " 議事課 課長補佐 一海浩也 氏
- ・ " 議事課（広報広聴係） 川合佑紀 氏（司会）
- ・ " 議事課 係長 中島友哉 氏
- ・ " 総務課 係長 田中 氏

(4) 調査の経過

四日市市役所議会会議室において、四日市市議会議員、込山委員長のあいさつの後、四日市市議会における ICT 活用の取り組みについて説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に市川副委員長がお礼のあいさつを行った。

(5) 調査結果

四日市市議会では、開かれた議会の推進のため議会の見える化検討委員会を中心に議会 ICT に取り組んでいる。議場内に 150 インチの大型スクリーンを設置し、資料を投影して一般質問を行い、執行部の答弁でも資料を投影することで、市民から議事内容や議員の表情が分かりやすくなったという声が寄せられている。他にも、SNS (facebook、Twitter、Instagram、LINE) による情報発信、タブレット端末、会議用システムやグループウェアの導入など、ICT を活用した議会運営に取り組んでいる。



▲ 四日市市議会の視察の様子

先進的な取り組みとしては、Zoom を活用したオンライン会議を、常任委員会でも適用できるよう委員会条例の一部改正、運営要領の制定を行い、コロナ禍に対応した議会運営を行っている。

議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名

込山 文吉

●神奈川県藤沢市議会

(1) 日時；令和4年 11月 14日（月）14時 30分～16時 30分

(2) 研修テーマ；ワールドカフェ形式による議会報告会について

(3) 所感；

参加者の募集方法、「カフェトーク藤沢」のテーマの決め方、ファシリテーターの進め方、意見のまとめ方などについて研修し、質疑を行った。

平成28年からワールドカフェ方式を採用している。対象を小学生まで拡大し、講師及びファシリテーションを関東学院大学牧瀬稔准教授とゼミナール生に依頼している。議員が前に出ず、聞き役に徹するように努めている。参加者の満足度が88%に向上した。毎年数多くの提言に繋げている。高校生からのアイデアから「#藤キュン課」が設置され、20年後の藤沢を考える意見を募集し、まちづくりに繋げている。広聴広報委員会で結果を検証し、今後の方向性を検討している。特に、提言を提出した後の検証についての競技が中心に検討が行われている。

今後の課題として、市民の方に興味を持ってもらい、活発な議論ができるテーマの設定とテーマに沿った雰囲気図栗の会場づくりが必要になる。

議会報告会から意見交換会・カフェトークへと議員が前に出ない方向へ移行。

牧瀬稔ゼミナール生にファシリテーターを依頼しており、議会のかかわりがこれで良いのかとも思うが、より幅広い市民の意見を広聴するためには必要なことかとも思う。

●埼玉県川越市議会

(1) 日時；令和4年 11月 15日（火）10時 00分～11時 30分

(2) 研修テーマ；議会ハラスメント根絶条例について

(3) 所感；

議会ハラスメント根絶条例制定に至った経緯をお聞きし、合意形成までのプロセスなどを研修。ハラスメントの調査を実施した第三者委員会から、市議会議員の政治倫理に関する条例制定について提案され、協議過程でハラスメント根絶条例に移行している。

ハラスメントに関する事象が発生した場合の流れは、

- ① 職員からハラスメントがあった旨の申し出
- ② 第三者委員会によるハラスメントの事実把握
- ③ 第三者委員会からの再発防止策の実施
- ④ ハラスメントの事実が確認された場合は議員名の公表
- ⑤ 議会としての決議

となっている。

ハラスメントの防止については、ハラスメントについての研修の必要性を感じた。

条例で、ハラスメントについての研修会を義務付けており、防止するためにはハラスメントについて・議員のコンプライアンス研修を積み重ねることが必要である。

「ハラスメントがあると認めるとき」の基準は第三者委員会を設置し、第三者委員会による事実関係の調査結果としている。第三者委員会の設置については（付属機関設置について、法の定めがない）議会基本条例への加筆が必要である。

今後、本市議会が「ハラスメント防止条例」を制定にあたり、第三者委員会の設置に対する議論も必要である。

### ●愛知県岩倉市議会

(1) 日時；令和4年11月16日（水）9時00分～10時30分

(2) 研修テーマ；議会活性化の取り組みについて

(3) 所感；

ホームページを活用して予算・決算に対する意見募集を行っており、意見をもとに委員会質疑で取り上げ、さらに委員会の総意により委員会代表質問を行い政策提言に繋がっている。

委員会代表質問という斬新的な取り組みであり、常任委員会に所属する委員が、委員会を代表して質問を行うものである。本市議会では、「市議会からの市政に対する要請書」として9月議会最終日に市長に提出しており、12月議会冒頭に「回答書」を受け取っている。

制度的には、本市議会の制度が合っていると考える。

今後の課題は、回答書を精査する委員会の取り組みと予算委員会での質疑に繋げていく制度が必要か。

常任委員会の質疑をYouTubeで配信している。本市議会の課題としてきた問題解決に大きなヒントを頂いた。今後、委員会で協議し、本市議会常任委員会の映像配信に向け取り組んでまいりたい。また、今回の視察研修の対応を岩倉市議会議長、全議会運営委員が出席し、それぞれの立場で質疑対応する前向きな姿勢を学んだ。

### ●三重県四日市市議会

(1) 日時；令和4年11月16日（水）13時30分～15時00分

(2) 研修テーマ；議会ICTについて

(3) 所感；

議会モニター制を採用しており、市議会モニターからの意見をもとに、傍聴者への資料配布やスピーカ増設等傍聴について、市議会の広報広聴について改善している。

緩やかな通年議会を採用、定例会を年1回とし、会期を5月～翌年4月までの通年として議会を開催している。



休会中の場合、災害等の突発事件や緊急性のある課題、これまで地方自治法第179条第1項により先決処分を行っていた議決事件は、原則として議長の権限で緊急議会を開催し、審議することになる。開会議会（定例会の招集により、最初に開く会議）・定例会（6月・8月・11月・2月に定例的に開く会議）・緊急議会（定例会以外に緊急に必要なが生じた際に開く会議）・閉会議会（閉会に際し必要に応じて開く会議）

ICT等を活用した広報・情報発信の取り組み

常任委員会等資料のホームページ掲載（掲載する資料の範囲の拡大）

インターネットによる映像の配信

委員会での審議を動画配信サービスを活用して、ライブ中継・録画配信

その他、

大型スクリーン・電子採決決算システムの設置

大型スクリーンを活用した一般質問は25人中20人が使用している。また、執行部の資料統計にも活用している。

本市議会の長年の課題であるが、全議員がタブレットを活用していることから、一般質問資料等の配信に活用できないか、技術的問題も含め協議が必要と思う。

Zoomによるオンライン会議等の開催

令和3年3月にオンラインでの委員会を開催できるように特例規定を設けるための委員会条例の一部改正を実施、合わせて運営要綱を制定している。

コロナ感染症等での濃厚接触者となった議員、参考人や請願者の出席を想定している。

議会アドバイザーの導入

令和4年度から、外部の有識者の意見を取り入れて市議会の取り組みを推進する。議員への研修を積極的に実施することを目的に、議会アドバイザーを導入している。

本市議会としても、より多くの市民の要望を実現するためにも、有識者の意見を取り入れる必要性を感じる。



議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名	市川 洋介
-----	-------

令和4年11月14日から11月16日

11月14日(月)

**藤沢市議会 ワールドカフェ（議会報告会、意見交換会）**

議会報告会、意見交換会をカフェトークと名付け『藤沢市の議会基本条例の理念である開かれた議会』『市民に親しまれる身近な議会』このようなコンセプトにおいて講師、ファシリテーターとして関東学院大学の牧瀬教授監修、指導の下、関東学院大学の学生が主導的な立場で参加し市民、学生、議会、議員が参加して市民の率直な意見を吸い上げている。

藤沢市議会は、これ以前にも議会報告会、意見交換会は実施していたが、参加者の年齢層が偏り、若い方の参加がなく参加者が固定化されてしまい人数が減少。また、特定の参加者に発言が集中するなど意見交換会、議会報告会自体が形骸化されて、市民と議会とのやりとりも陰湿なムードも生まれたとのこと。

市政全般の苦情が中心となり建設的な議論にならず、未来思考の発想にならず、そのような背景でカフェ方式に至った。

11月15日(火)

**川越市議会 ハラスメント根絶条例について**

川越市のハラスメント根絶条例制定の発端は、川越市議会事務局の女性職員からのセクシャルハラスメント、パワーハラスメント行為に対する嚴重注意、および再発防止について弁護士を通じて川越市議会議長に申し入れ、なおかつ議会事務局職員がさいたま市で記者会見を行ったことにより、条例が策定され制定された。ハラスメントの案件の調査を行った第3者委員会から、市議会議員の政治倫理に関する条例制定について提案され、議員倫理条例を協議する過程でハラスメント根絶条例に移行した経緯である。

三豊市においても現在、中身を精査しているが、とにかくなるべく早く調査研究して策定し条例化したい。

11月16日(水)

**岩倉市議会 議会業務継続計画（BCP）**

全国的に災害時、有事の際の議会の役割とその責任について、その業務を実施するために業務継続計画BCPを策定している地方自治体が増えている。

岩倉市は、議会基本条例第24条に災害時の対応を定め、各種訓練を実施し災害発生時における議員の対応をしてきた。しかし、東日本大震災をはじめとする大震災大規模災害の頻発、他国からのミサイル発射事例、ロシアのウクライナ軍事侵攻、新型ウイルス感染症の発生などの市民の生命、生活を脅かすさまざまな危機に対し議会としてルールを明確にして向きあう必要があり、議決権がある以上停滞、休止は出来ない。地方自治体執行部はすでに地方防

災計画や業務継続計画（BCP）は策定し制定されているが、議会においてはいまだに議会業務を継続する詳細なルールは策定、制定されていない。

三豊市においても、災害は少ないものの、この度の新型コロナウイルス感染症による議会議員の感染者が数名出て、委員会、本議会に出席できない事案も発生した。このことによりなるべく早い段階でBCPを策定し制定しなければならない。

11月16日(水)

#### 四日市市議会 議会活性化ならびに ICT

四日市市議会は、議会活性化並びに開かれた議会の実施という点では全国的にも先進的な取組を実施して、全国の地方自治体議会から注目され、研修が絶えないとのこと。

- ① 通年議会の実施
- ② 反問権
- ③ 文書質問
- ④ ICTを活用した広報、情報発信
- ⑤ 議会ホームページの本会議会議録の掲載
- ⑥ 常任委員会、特別委員会の会議録の掲載
- ⑦ 政務活動費の領収書、視察報告書の掲載
- ⑧ 本会議、委員会すべてのインターネットによる配信

いつ何時も議会で協議されていることが、ライブ配信、録画配信により市民へ開示されることで、開かれた議会として機能している。このたびの新型コロナウイルス感染症によりZoomによるオンライン会議を実施。特例規定を設け委員会条例を一部改正し、即座に対応して実施している。三豊市においても、三豊市議会が何を執行部と協議しているのかについて、市民への開示をなるべく早く進めていくべきである。

議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名	為広 員史
-----	-------

日時 令和4年11月14日～16日  
 場所 14日 神奈川県藤沢市議会  
 15日 埼玉県川越市議会  
 16日 愛知県岩倉市議会  
 三重県四日市市議会

研修内容

**藤沢市議会 ワールドカフェ形式による議会報告会**

ワールドカフェとは「カフェ」にいるような、リラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に意見交換を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていく方法です。

過去の議会報告会は参加者の年齢層が偏り、若い人の参加が少なかった。そこでワールドカフェ方式で「議員と話そう カフェトークふじさわ」～みんなが主役 投票率アップ大作戦～として開催。その後話し合う内容を変えて次々と開催している。参加者も会を追うごとに増えていっている。

また、報告会で出された意見を基に提言書を市長に提出する等、実施後の取り組みの充実も図っている。

**川越市議会 議会ハラスメント根絶条例について**

条例制定の発端として、議会事務局女性職員から「議員によるセクハラ・パワハラ行為に対する厳重注意及び再発防止」について弁護士を通じて議長に申し入れがあった。

議会では、第三者委員会の設置とハラスメント研修会の実施を確認。16回の第三者と10回の議員倫理委員会を4回の研修会を開催し、川越市議会ハラスメント根絶条例を制定している。ハラスメントはどこにでも在り、本人の自覚が一番必要ではないかと思われる。自覚を促す意味での条例は必要かと思う。

**岩倉市議会 議会活性化の取り組みについて**

岩倉市議会サポーター制度の設置

岩倉市議会の運営等に関し、市民からの要望、提言その他を広く聴き取りし、議会運営に反映させ、市議会の円滑かつ民主的な運営を推進することを目的としている。

人数は100名以内で18歳以上の市民から年代別に無作為に抽出された市民、又は公募による市民で構成されている。

本会議や委員会等を可能な限り傍聴して頂き、意見や提言を文書により提出して

頂く制度です。

なかなか面白い制度だと感心しました。

また、議会BCPについても制定され緊急時に備えていた。

#### 四日市市議会 議会ICTについて

議会改革が進んでいて、タブレットの全議員への導入は平成27年度よりされている。令和3年度よりは、これまでの全額公費負担から、通信費の二分の一を政務活動費で支払い、政務活動にも使えるよう使用範囲の拡大をしている。

また、通年議会を採用している。これにより議長の権限で緊急議会を開催し審議することもできる。議場には大型モニターを設置し活用されていた。三豊市においても大型モニターの設置は急務かと思う。

議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名

城中 利文

1 研修日程

令和4年11月14日(月) 14:30~16:30

2 研修先

神奈川県藤沢市議会

3 研修目的

ワールドカフェ形式による議会報告会について

4 研修所感

藤沢市は、湘南エリアを中心に東京からの移住等により人口が増え続けている市である。そのため、藤沢市が抱える課題は人口増による小学校の増設など、本市とは違ったものであった。

研修を受けた場所は、視察日前日にワールドカフェ形式による議会報告会(カフェトークふじさわ)が開催されており、概ねそのままの雰囲気を感じながら視察を受けた。

カフェトークふじさわは、参加者が偏らないようターゲットを絞って募集し、実施後の取組としては、提言書を市長に提出している。その市民からの意見は、賛成や反対を含めてそのまま市長に提出している。議員によっては一般質問に取り上げるなど、市民の声を市政に届ける役割を果たす手段の一つであると感じた。

いろいろな年齢層からの意見を聞くなど「広聴に力を入れた取り組み」への大切さを知ることができた。

1 研修日程

令和4年11月15日(火) 10:00~11:30

2 研修先

埼玉県川越市議会

3 研修目的

議会ハラスメント根絶条例について

4 研修所感

平成30年9月に川越市議会事務局女性職員が、同市の古参議員からハラスメントを受けたことについて、弁護士を通じて議長へ申入れを行い、さいたま市で議員実名を公表した記者会見を行った。そのことを受け、川越市議会はハラスメントに関する条例制定に動き、平成31年3月にハラスメント根絶条例の制定を行っている。その間、多くの代表者会議や第三者委員会を開催するなど、川越市

議会の条例制定に対する真摯な取り組みと覚悟を感じた。

女性職員は、現在はその議員と和解して、部署も換わって市役所で勤務しているが、これからも周囲の対応や心のケアが必要となると思われる。このような事例は、一度起こってしまうと、お互いが一生背負っていくことになるので、未然に防止することが重要となる。

ハラスメントは、受けた側の気持ちの持ち方に左右される。いつでも相手の気持ちになって、細かな気配りと思いを大切にしていきたい。

## 議会活性化特別 委員会行政視察研修 所感

委員名	丸戸 研二
-----	-------

### 1. 研修日程

令和4年11月14日(月) ～ 16日(水)

### 2. 研修先

14日(14時30分～16時30分) 神奈川県藤沢市議会

15日(10時00分～11時30分) 埼玉県川越市議会

16日(9時00分～10時30分) 愛知県岩倉市議会

(13時30分～15時00分) 三重県四日市市議会

### 3. 研修目的

神奈川県藤沢市議会      ワールドカフェ方式による議会報告会について

埼玉県川越市議会      議会ハラスメント根絶条例について

愛知県岩倉市議会      議会活性化の取組について

三重県四日市市議会      議会 ICT について

### 4. 研修所感

#### 【神奈川県藤沢市議会】

藤沢市議会が取り組むワールドカフェ方式による議会報告会については、平成30年度に一度視察を行っており、今回が二度目である。

なぜ市民との意見交換会がワールドカフェ方式なのか。

- ・若い人たちの参加が少ない。
- ・参加者が固定化してしまい、参加者が減少した。
- ・特定の参加者に発言が集中してしまった。
- ・市民と議会の間で、対立ムードが生まれた。
- ・苦情が多く、建設的な議論になりにくかった。
- ・テーマ設定や報告の進め方に課題が残った。
- ・参加者の満足度が低かった。

前回の視察時にこのような課題を聞いた。

まず、どこの自治体においても、また、先進的と言われている自治体においても、共通して直面するであろう課題と思われる。三豊市においてもこのような課題を少なからず感じているからこそ、他の事例を研修しようとしたものである。

このような課題を解決しようと思われたのが、ワールドカフェ方式による意見交換会である。

藤沢市の取組において、牧瀬稔先生の存在は欠かすことができない。かつて三豊市にも議会研修の講師として来ていただいたことがある。

すべては、牧瀬先生の研究・実践の場であり、ゼミ生も一緒に参加している。

藤沢市の取組実績は次のようになっている。

第一回 平成28年5月8日(日)午前の部と午後の部の2回開催。



テーマ 投票率の向上 参加者 99 人

第二回 平成 28 年 11 月 23 日(水・祝日)午前の部と午後の部の 2 回開催。

テーマ みんなが主役 投票率アップ大作戦! 参加者 78 人

第三回 平成 30 年 1 月 21 日(日)午前の部と午後の部の 2 回開催

テーマ 「藤沢」の知名度アップ大作戦 参加者 82 人

第四回 平成 30 年 12 月 1 日(土)午前の部と午後の部の 2 回開催

テーマ 藤沢の誇り、愛着アップ大作戦 参加者 118 人

第五回 令和元年 11 月 30 日(土)午前の部と午後の部の 2 回開催

テーマ 「私が市長」大作戦 参加者 121 人

この他にも、令和 2 年 11 月 15 日(日)に「on-line カフェトークふじさわ」を開催している。

Web 会議システム(zoom)を活用して試行開催としている。

第一部 中学生

第二部 高校生

第三部 民間企業の 3 回開催

講師は、関東学院大学法学部地域創生学科准教授の牧瀬稔先生が務めている。

私たちが視察を行った 11 月 14 日の前日に第六回のカフェトークを開催している。私たちの視察は、あえて前日の片づけをせず、そのままの状態で見学をさせていただいた。

意見交換会は、付箋方式で、自由に意見を出し合い、出された意見を付箋に整理し、その付箋を分類して論点整理を行っていた。

また、それぞれの意見交換会ごとに市長はじめ関係者に提言書を提出しているが、これは議会として施策・政策提言を行うものではなく、出された意見をそのまま提言として提出しているもので、「参考までにどうぞ」という形である。従って、政策提言がその後どうなったかの調査もしていない。

#### 【所感】

一般的な議会報告会では、一方的な進め方になってしまい、多様なしかも建設的な意見が出にくくなっているという状況については三豊市も同様である。

藤沢市の取組は、牧瀬稔先生の研究と実践の場であると言っても過言ではない状況である。各テーブルにも牧瀬研のゼミ生を配置し、テーブル単位のディスカッションを管理している。

三豊市においてカフェトーク方式を導入する場合には、牧瀬先生をお願いするわけにはいかないことから、相当な研修を行い、この方法による意見交換会の運営ができるようスキルアップする必要がある。

つまり、藤沢市と同様の運営は難しいということであり、むしろ三豊市方式を模索する方が建設的かもしれない。

まずは、広聴機能をどのように持たせるのか、議員間で研究を行い、その機能を母体にして三豊市型意見交換会を検討したい。

また、藤沢市議会においては、市長に対する提言書というものを提出しているもの

の、様々な意見を議会として租借し、議会としての提言を行っているものではない。意見をそのまま資料的に提出しているもので、市長が政策形成を行おうとどうしようと市長まかせである。追跡もしていない。

これでは意見交換会を行う目的が、市長の補助機関化してしまう恐れも否定できない。

#### 【埼玉県川越市議会】

議会ハラスメント根絶条例について研修を行った。

このような条例が一般的規範として制定されるのは違和感があり、その原因をお聞きした。

条例制定の背景(概要)

期数を重ねた年長議員が、酒席において議会事務局職員に酒を飲むことを強要した。また、自宅へ招き同様のことを行った。

このようなことが看過できなかった職員は、弁護士を伴いさいたま市において記者会見を行いハラスメントが表面化した。

このような背景を踏まえて「ハラスメント根絶条例」が制定されたものである。

私としても、ハラスメントは根絶させるべきと思っはいるものの、ハラスメントの判断は受けた側が訴えるもので、同じような事象でもハラスメントになる場合と、ならない場合があるなど難しい側面も持っている認識している。

川越市からは資料として根絶条例の逐条解説をいただいたので、時間的な制約がある中、全文に目を通した。

その中で一点疑問を持ったのは、一般的にハラスメントを根絶させるための条例であるはずのものが、「被害者に配慮することにより」という表現を用いていることである。

条例は、普遍的なものであり、その目的を達成するための条項によって構成されるべきところ、川越市の条例は「被害者」という言い方をしている、つまりある特定の人物を置いてつくったのではないかと思われたのである。

このことについて、この条例は、過去にあったハラスメント行為について、その被害者に対して、川越市議会はハラスメントを根絶させ、二度と再びハラスメントの被害者を出しませんという決意と姿勢を見せることが条例の目的だったんですかと尋ねたところ、その通りですという回答を伺った。

今、三豊市議会においてハラスメントに関する議論を行っている。というよりも、既に条例案が示され、これについて意見を出す形である。

ハラスメントの撲滅については、もちろんその趣旨に賛成である。しかし、先に条例ありき、つまり条例を制定することが目的になってはいまいか。大事なものは、ハラスメントに関する知識を深め、様々なハラスメントを排除するための力を身につけることであり、このような共通認識を築くことだと考える。

三豊市議会としてどのような形をとるかはその後のことである。具体的な事案が発生していない以上、特定の人物や想定による事案を踏まえることには危険性を感じ

る。個別条例よりも倫理条例を見直す方式が現実的ではないかと受け止めている。

#### 【愛知県岩倉市議会】

議会活性化の取組について視察を行った。

岩倉市議会は、ホームページを利用して予算、決算について意見を募集している。5つの事業に絞り込んで意見募集をしているが、その絞り込みは常任委員会に任せているとのことである。

意見については、決算で11件、予算で15件が寄せられており、委員会の代表質問や議員の一般質問で活用している。

議会は、市民の代表者によって構成されていることから、議会としても、また議員個人としても、広く様々な意見を常に収集する機能は持たなければならないところである。

しからば、どのような方法を取れば正確に、早く、しかも多くの意見を得ることができるのかが課題となるところ、岩倉市議会においては、ホームページを活用しているものである。

三豊市議会としても、これまでの議会報告会をどのように改革するのか、また、様々な手段を通じて広く意見を募集することについては、議会に広聴機能を整備して早急に取り組む必要があると感じた。

#### 【三重県四日市市議会】

議会 ICT について研修を行った。

四日市市議会は、一般質問等において、質問者が用意した資料を議場モニターに映して行っている。また、委員会のインターネット中継も実施している。

本題に入る前に、端末機器の購入について確認を行った。

四日市市議会では、端末機器として SurfaceG02 を採用している。議員 34 人(定数 34) + 事務局 10 で計 44 台を導入している。

費用は、428 万 3,400 円で、1 台当たり 97,350 円である。この購入方法は、市内の大型電気店に見積もりを依頼し、一番安く価格を提示した店で購入している。なお、執行部はこの機種を導入していない。

三豊市の場合は、ソフトとの関連で導入後のケアも含めて大手の事業者から購入しているが、四日市市議会の方法であれば、三豊市においても市内における内需も起こしながら機器の導入ができる。考えてみるべきだろう。

次に気になるのが、機器は導入したものの、34 人の議員においては使いこなす能力に差異があり、一人一台導入の成果が上がらないというものであるが、当然、そのような現象は何処も同じ、四日市市議会においてもあるようである。

機器の導入と研修は平行して行う必要があり、レベルは「十分できていない人」に焦点を合わせるべきであろう。しかしながら、四日市市議会においては、特別な研修は行っておらず個々の努力に任せているようである。

端末機器の使用例としては、パワーポイントを用いて資料を作成し、一般質問で使

用しているとのことである。三豊市においては、「議員間で差が出る」というような内面的思考から、一般質問等には導入していない。

一般質問は議員個人が議員活動等で収集した情報を基に、市長に対して考え方を質したり、政策提言を行う場であるが、自己満足に終始することなく、常に市民が見ているという意識の中で、より分かりやすい一般質問を行うべきだと感じた。また、議場を見せていただいたが、どこの議会においても大型のモニターが導入されており、議員、執行部ともどこからでも見えるように配置されている。また、必ず傍聴席(主賢者である市民)にも導入されていることが印象的である。

三豊市においては、お金が無いからという理由から、小さなモニターが一台、それも議場の側面に設置されており、見えにくい場所もあり、小型であることから映し出されているものが確認できない状態にある。また、傍聴席には向けられていない。

これでは、いくら議会活性化への姿勢を見せようとも、活性化に取り組んでいるとは言えず、また、その理由が「お金が無いから」ということでは話にならない。

三豊市における最高の決定機関で二元代表の一翼を担う議会が、このようなありさまと認識では、活性化に取り組んだとしても、常に他所のマネであり、追随であり、先進的な議会運営にはたどり着けないような気がする。

さらに、このような設備整備を行うのであれば、今に合わせるのではなく、少なくとも10年先を見通して整備すべきであろう。それは決して過剰投資ではなく、市民と三豊市にとって必要な経費である。

議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名	高木 修
-----	------

1. 神奈川県藤沢市議会

- ・ 11月14日(月)、14時30分～16時訪問
- ・ <テーマ> 『ワールドカフェ形式による議会報告会について』  
参加者の募集方法、(特に若い世代の参加者)、会議の進行管理、その他運営に関することについて、先進地である藤沢市の取組みを研修し、本市の議会報告会のあり方について検討する際の参考とした。
- ・ <所感>  
議会内に進取の精神がみなぎっており、新しいことへの取組みに躊躇がない。お手本にしたい。

2. 埼玉県川越市議会

- ・ 11月15日(火)、10時～11時30分訪問
- ・ <テーマ> 『議会ハラスメント根絶条例について』  
議会のハラスメント条例について、すでに条例を制定している川越市より、川越市議会ハラスメント根絶条例(平成31年3月7日交付)の制定の目的、条例とした理由、事象発生時の議会の対応、根絶条例の指針等の策定、その他について研修した。
- ・ <所感>  
短期日で、思い切った条例を制定した。参考になる。

3. 愛知県岩倉市議会

- ・ 11月16日(水)、9時～10時30分訪問
- ・ <テーマ> 『議会活性化の取組みについて』  
ホームページを活用した予算・決算に対する意見募集の取組みについて、意見募集の手法、意見をどのように予算・決算に反映したのか、この取組みの成果と今後の展望について研修した。
- ・ <所感>  
皆で考える、皆でやるの精神、非常に参考になる。

4. 三重県四日市市議会

- ・ 11月16日(水)13時30分～16時訪問
- ・ <テーマ> 『議会ICTについて』  
ICTを活用した先進的な議会運営を視察し、取組みの参考とした。
  - ・ 一般質問の資料を議場内モニターに映す取組み
  - ・ 委員会のインターネット中継

- ・世代間のICTギャップ対応方法ほか
- ・〈所感〉  
先進的な取組が非常に参考になる。

以上

## 議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名

田中 達也

### 1. 研修日程

令和4年11月14日 14:30～16:30

### 2. 研修先

神奈川県藤沢市

### 3. 研修目的

ワールドカフェ形式による議会報告会についての先進事例視察のため

### 4. 研修所感

#### 組織編成について

議会報編集委員会から広聴広報委員会に改めている。

- より広聴に力を入れる。
- ホームページを充実させる。

等の目的で行われた。

全会派からバランスの良い人数で構成されているとのこと。

議会報の編集に関しては、事務局に依存する面が大きく、主にカフェトークふじさわ開催のために機能していると感じた。

#### カフェトークふじさわについて

従来は地域毎の意見交換会を開催していたが、平成28年5月に、ワールドカフェスタイルで開催したのが始まり。

初回は選挙権年齢が18歳以上へ引き下げられたことを受けて、テーマを「投票率の向上」とし、カフェトークの提唱者である牧瀬稔先生（現関東学院大学准教授）をファシリテータに招いて開催したとのことである。

従来からはガラッと雰囲気が変わって、手応えを感じたそうであるが、その手法の特徴は、

ワールドカフェ＝旅人

別のテーブルに移って違う人と意見交換をする

最後には元に戻って、旅先での知見を還元

言いつばなし方式

どんな自由な意見を言ってもかまわない

それを批判しない

全体像を掴む目的

意見が分かっていたら、そのまま受け止め、集合知とする。

これまでの開催ではすべて、牧瀬稔先生やその研究室の学生にファシリテ



ーションを依頼し、議員は一般参加者としているとのことで、藤沢市議会でも牧瀬研究室への依存状態は課題とのことであった。

そこで、現状のメリット・デメリットについて問うてみた。

- メリット

従来は議員も構えていた。厳しい質問に答えるプレッシャーがあり、素朴な意見が言えなかった。市民との間に目に見えない壁があったが、それらが改善された。

市民も議員も大人も子どもも関係なく一参加者として意見ができる。

- デメリット

たまたま牧瀬研究室の研究活動にタイアップできたものであり、本来は議会が主催すべきもの。良かった点ではあるが、ここが限界でもあるとのことであった。

また、議員のファシリテーション力向上については、課題として認識しているものの、踏みこめていないとのことであった。

三豊市議会としても、現状の議会報告会から、ワールドカフェ形式に移行するメリットはあると考えるが、そのためには議員のファシリテーション力を向上させることが不可欠であるとする。

また、その時のテーマに対して、中立でいられる人材をファシリテータに選任する必要も感じる。(本来はどういう立ち位置であれ、ファシリテータに選任されれば中立を貫くべきであるが、議員がそれを担うことには難しさを感じる)

過去に一度だけファシリテーション研修を行なっているが、継続的に行う必要性を強く感じている。

#### 1. 研修日程

令和4年11月15日 10:00～12:00

#### 2. 研修先

埼玉県川越市

#### 3. 研修目的

議会ハラスメント根絶条例についての先進事例視察のため

#### 4. 研修所感

平成31年3月7日、川越市議会ハラスメント根絶条例が可決成立。

議会の倫理に関する条例ではなく、ハラスメント単独の条例を作った背景は、実際に起こった事案に対する対応であったとの説明があった。

議会倫理条例を策定中であるが、制定後も実際に起こったことに対する意識づけのために、ハラスメント条例は残すとのことであった。

条例に規定されている研修会の実施について、毎年開催しており、全議員と事務局職員を出席対象としている。

ハラスメントの線引きについて質問をしたところ、  
世代間での認識もまるで違う。  
住みにくい世の中になった。  
受け手が嫌がることはハラスメントである。  
との回答があった。

ある事柄をハラスメントと感ずるのか否かについて、それがマジョリティかマイノリティかは問題ではなく、受け手の感覚のみで判断されるということには大きなリスクを感じる。

受け手の生い立ちや感性に完璧な配慮をしながらコミュニケーションすることを目指すのは現実的ではないため、研修を繰り返す中でケーススタディとしてさまざまな事例を知っておくことが、必要と感じた。

先方の応答の中に、

耳にタコができてもいい。忘れないように何度も研修することで身につけていく。

という言葉があったが、まさにその通りであると感じた。

三豊市議会がハラスメント防止条例を策定するに当たっては、研修の実施を義務付け、議員の意識改革を促すことに主眼を置くべきと考える。

#### 1. 研修日程

令和4年11月16日 9:00～11:00

#### 2. 研修先

愛知県岩倉市議会

#### 3. 研修目的

議会活性化の取り組みについての先進事例視察のため

#### 4. 研修所感

ホームページを活用した予算・決算に対する意見募集の取り組み

募集開始に合わせて、予算であれば「新規及び主要事業一覧」を、決算であれば「課題等及び提言」を公開し、2週間の期間で市民からの意見を募集している。

「課題等及び提言」は、議員に対してテーマ募集をかけ、議員は各事業の成果報告書を見て提出している。

提出された意見は、決算審査で11件、予算関係で15件とのことであっ

た。

意見募集の周知については、下記の方法にて実施されている。

- 議会だより
- 議会ホームページ
- 議会サポーターを通じて
- 市民団体をお願い

得られた意見を、予算・決算にどのように反映しているのかについては、各委員会で検討されているとのことであり、意見をもとに政策提言に繋がった例は今のところないとのことであった。

ホームページを通じて広聴活動を行うことと、議会サポーター制度については意義を感じるが、実際に声を集めるには課題が多いと感じた。意見を得るためには、効果的な情報開示が必要であるし、開示した情報に目を通してもらうには、市民の参画意識を高める必要がある。また、実際に届けられる声が多数意見なのか、少数意見なのかの見極めも必要と考えるが、仕組みとして成立させるのは非常に難しいと感じている。

三豊市においても積極的な広聴を行うべきではあるが、まずは効果的な情報公開に注力し、市民の参画意識を醸成することに繋げるべきだと考える。

#### 一般質問での資料提示について

議場モニタへの表示と印刷物の配布の形で実施されている。

印刷は各議員が行い、事務局に事前提出。当日事務局が配布。

議場モニタには自分のPCを接続する。

ページ送りは自分でやっても良いし、事務局がやることもある。

セッティングは一人終わるごとに10分の休憩をとり、その間に行っている。

事前に提出された資料については、事務局で著作権などの簡単なチェックは行うが、基本的に自己責任。

とのことであった。

一般質問において参考資料の提示が有効であることは、もはや疑う余地はなく、三豊市議会においてもいつやるかの話でしかない。

この程度のことについて、実施済みの議会ではあまり難しく考えてはいない。

最短スケジュールで導入すべきであると考える。

#### 委員会映像の配信について

YouTube を通じて、定点カメラでの配信を行っている。

(行政側はあまり映らない)

10 万円程度のハンディカムで撮影し、編集なしの録画配信としている。

(不規則発言があってもそのまま)

傍聴者が生配信を行うことも認めているとのこと。

議論で隠すことはなく、公開に徹しているようである。

三豊市議会としても、機材や撮影方法についてはより効果的な形を検討しつつも、公開の方針についてはこのまま真似るべきだと考える。

#### 議会 BCP について

議会 BCP 策定から約 1 年が経過。

大きな災害がないため発動の経験はない。

議員が現場に入り、困り事を議会に集約し、議長を通じて市に要請する構成になっているとのこと。

#### 被災時の地域における活動に従事とは

ケースバイケースであり、建物の崩落があれば救助活動、避難所が開設されれば避難所運営に携わるなどが想定されている様子。

積極的な地域の避難訓練への参加や、初級救急救命講習を議員全員が受講するなど、準備をしているとのこと。

議会 BCP には、議員が防災士の資格を取得するよう努めると書かれており、15 名中 2 名が取得されている。

災害中に、現場からの声が直接市に届けられるのではなく、議会を経由するという点について、非常時に情報伝達の経路を増やすことが正しいのかどうかを検証する必要があると、さらなる調査が必要であると考えている。避難訓練への参加や救命講習などの受講は積極的に行うべきだと考える。

防災士資格については、私はすでに取得しているが、定期的に知識の更新や補完を行わなければ意味がないと感じている。

検討が必要である。

#### 1. 研修日程

令和 4 年 11 月 16 日 13:30～15:00

#### 2. 研修先

## 三重県四日市市議会

### 3. 研修目的

議会 ICT についての先進事例視察のため

### 4. 研修所感

#### インターネットによる映像の配信について

本会議は議会動画配信システムを利用したライブ中継・録画配信を、委員会は YouTube を利用したライブ中継・録画配信を行っている。委員会の映像配信は、三豊市でも直ちに行うべき。

#### 議場への大型スクリーンの設置

150 インチのスクリーンで議員の評決や、一般質問における議員・執行部の資料提示を行っている。

大型モニターを使つての資料提示は、三豊市でも直ちに行うべき。

#### SNS の活用

Facebook、Twitter、Instagram、LINE での情報発信を行なっている。さまざまなチャンネルで情報発信を行うべきであるが、現状のルールでは、発信の都度議長決済が必要であることから、タイムリーな発信につながるかどうか課題となる。

最終的な責任は議長にあるとしても、各委員長に権限を委譲するなどの検討が必要と考える。

#### タブレット端末の導入

令和元年5月～令和3年4月

iPad Pro 12.9 インチを議員1人1台、事務局に10台導入  
機種代金（レンタル）、通信料ともに全額公費

令和3年5月～現在

Surface Go2 10.5 インチ導入

端末は購入、SIM カードを月額払いの2年間契約

資料作成には Microsoft 社製のソフトを使うことが多く、iPad では互換性に課題があること、12.9 インチは持ち運びが重いとのことで、SurfaceGo2 が選定されたとのこと。

三豊市議会では、アプリ起動の容易さから iPad Pro を、大画面で視認性が良いことを重視し 12.9 インチを選定している。

Microsoft 社製ソフトとの互換性については、私自身は PC で資料作成し、クラウドストレージでデータを共有し、タブレット側では軽微な

編集と閲覧を主にしているため、特に不都合を感じていない。  
市役所の Wi-Fi がセキュリティ面からクラウドストレージを使用不可にしていることが、大きな問題点である。

四日市市では MDM は導入されていないようであり、三豊市でも不要であると考える。  
貸与した端末にセキュリティ以外の使用制限をかけることは、利用方法習熟の妨げにしかならない。

#### 会議用システムの導入

moreNOTE を導入

2 資料の同時表示機能がある。  
ペーパーレスの効果は、従来の 3 分の 1 程度に抑えることができた。  
紙資料を求められることも導入当初より減少しているとのこと。

三豊市では Sidebooks を採用している。

2 資料同時表示機能はないが、iPad の画面分割機能とブラウザとの併用で変則的に実現は可能。

しかし、複数資料表示は、画面サイズから考えて、複数端末（あるいは画面）の利用が現実的。

システム変更の必要は感じない。

#### グループウェアの導入

desknetsNEO を導入

1. スケジュール共有
2. インフォメーション（掲示板）
3. 文書管理
4. 安否確認

に利用されている。

全ての議員がスマホを使っている状況であれば、スケジュール共有はスマホカレンダー（Google 等）との同期がベストと考えるが、実施はされていないとのこと。

Web 掲示板でのインフォメーションは、プル型メディアであり、三豊市議会で採用している Incircle のように、スマホへのプッシュ通知を実施すべきであるが、運用していないとのこと。

文書管理については、議案資料以外の様式等を全て共有しているとの

ことである。

三豊市議会では、必要になるたびメールで、しかもセキュリティ効果が薄く業務効率を下げるといわれる「PPAP」（暗号化 ZIP 添付メール）の方式で送られてくるため、改善が必要である。

クラウドストレージでのファイル共有を導入し、庁舎 Wi-Fi でもクラウドストレージへのアクセスを認めるべきである。

#### Zoom によるオンライン会議の実施

オンラインでの委員会を開催できる特例規定を設けるための委員会条例の一部改正を実施されている。

合わせて運営要領も制定している。

濃厚接触者となった議員や、東京事務所職員、参考人や請願者の出席などを想定しているとのこと。

そもそも会議への出席が現地でなければならないという考え方は時代遅れであり、常時オンライン併用とした方が、各自の議員活動の充実や、議員属性の多様化につながると考える。

特例と言わず、常設の方向で検討すべきだと考える。



議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名

金子 辰男

令和4年11月14日（月）

視察先 藤沢市議会 広報公聴委員会

ワールドカフェ形式による議会報告会

ワールドカフェ形式とはリラックスした雰囲気の中、テーブルを自由に行き交い行う。参加者はずっとひとつのテーブルにとどまらないで、移動が可能である。ワールドカフェは解答を出す事が目的ではなく、テーマに沿って、自由に意見交換をすること。得られた意見を集約し、検討を重ね、活用していくのは藤沢市議会である。今後の課題として感じたのは、開催手法としてオンライン方式、対面式。活発な議論に向けてテーマの設定。提言を提出した後の検証が必要と思われる。

令和4年11月15日（火）

視察先 川越市議会

議会ハラスメント根絶条例について

平成30年9月14日議会事務局女性職員から「議員によるセクハラ、パワハラ行為に対する嚴重注意及び再発防止」について弁護士を通じて議長に申し入れがあった。被害女性が「さいたま市」にて記者会見を行った。対象議員は、セクハラ、パワハラはなかった旨を主張したとのことである。14日には議会の代表者会議を開催。同28日第三者委員会を設置、ハラスメント研修会の実施を確認した。翌5日第一回第三者委員会を開催したとのこと。10月12日には対象議員が議員辞職した。条例の特徴としては、議員と職員を対象を特化している。今後、研修会の開催を義務付けている。そして、ハラスメントの事実が確認された場合は、当該議員の氏名等の公表を義務付けている。今後の課題としてはハラスメント研修会が毎年開催のため研修内容の調整とか、講師の選定に苦慮する。三豊市議会も大いに参考となる。

令和4年11月16日（水）

視察先 岩倉市議会

議会活性化の取り組みについて

岩倉市は総面積が10.47平方キロメートル。人口は21,860人。人口密度は4,544人。東西は3.9Km、南北は4.9Kmと非常にコンパクトな街である。各議員の本音として、市民とは常に密着している。選挙時には入れ替わりが激しく、議員活動や、議会での質問なども市民にアピールする事が大切との事。よって活性化は、あらゆる部門で行われている。課題としては当選する事が優先目的になることを避ける。木を見て森を見ない様になりやすい点である。

令和4年11月16日(水)

視察先 四日市市議会

議会 ICT について

ICTを活用した先進的な議会運営を視察。ICT等を活用した取り組みとして議会のホームページは平成9年より。ネットによる議会の生配信は平成18年より。タブレット端末は平成27年より。平成29年より会議用システムとして（moreNOTE）の運用開始。基本的に全ての会議資料を登録。

Zoomによるオンライン会議等の開催を令和3年より実施。コロナ禍における動画配信としてYouTubeによる議会報告を開催した。東海、近畿、北陸という3つの経済圏につながる地理的条件にも恵まれ、全国屈指の産業都市四日市市の活力の源になっていること、議会の中にも感じ取れた。31万人の勢いは凄まじい。我が三豊市の特徴を活かしたまちづくりにICTは欠かせない。

議会活性化特別委員会 行政視察研修 所感

委員名	瀧本 哲史
<p>視察日 2022・11・14</p> <p>視察先 神奈川県藤沢市議会</p> <p>視察目的 ワールドカフェ形式による議会報告会について</p> <p>研修所感 三豊市の課題 議会報告会の充実 藤沢市からの学び 堅くなりがちな議会報告会の、柔軟性を持たせた取り組み</p> <p>感想 なかなか参加者が増えないのが、議会報告会である。原因は、複数あると思うが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 議会という特殊で専門用語も多い機関の堅さが、近づきづらさをもっている</li> <li>2 効果がわかりづらいため、報告会を行う必要性を一部の意識が高い市民以外、参加する誘因が少ない</li> </ol> <p>など。</p> <p>そこで私たちは、神奈川県藤沢市に行って主にワールドカフェという形式の、議会報告会を視察に行った。</p> <p>ワールドカフェとは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、小グループを作り、メンバーを変えながら話し合う会議手法のこと。ワールドカフェのルールとして、あえて結論を出さないや、反論無しなどがある。</p> <p>議論をしていると、「正しいこと」を導き出しがちであるが、ワールドカフェ形式はテーマから外れなければ自由に意見を言っているというルールがある。質ではなく量が大事で、どんな意見も尊重されるので、参加するハードルが低いという特徴がある。また、席替えも複数回あり、そこも柔軟性が確保されている。</p> <p>毎回「カフェトークふじさわ」という名前で議会報告会を開き、ネーミングや服装はカジュアルで、参加者(例えば、高校生)も、テーマごとに色々変えている。</p> <p>以上の内容からも、これまで議会報告会に参加していた層と違った新たな層の開拓ができるようになる。三豊市としては、参加者の新規開拓や増加に対して参考になる手法だと感じた。</p>	

視察日

2022・11・15

視察先

埼玉県川越市議会

視察目的

議会ハラスメント根絶条例について

研修所感

三豊市の課題

議会ハラスメント条例の制定

川越市からの学び

いち早くハラスメントの根絶条例を制定したこと

感想

ハラスメントという言葉は、今や一般化している。今後三豊市議会でも条例制定を予定している。

今回、平成31年にハラスメント根絶条例を制定した埼玉県川越市から、主に制定した経緯などを学びに視察に行った。

川越市は、平成30年9月14日さいたま市にて議会事務局で働いていた女性職員が、弁護士と共に市議会議員からのセクハラ・パワハラを訴える、記者会見を行った。

内容については、ここではふれないが、このことがきっかけとなりハラスメント根絶条例を制定するまでに至った。

ポイントを何点かあげると

- 1 被害者(女性職員)本人が直接記者会見をしたこと
- 2 議長をはじめ、議会の対応が世間に事件が知れ渡ったこともあり、対応が早かった
- 3 第三者委員会を設置して、調査した
- 4 その経緯の中で、加害者である議員が記者会見から約1ヶ月後辞職した
- 5 以前から、この議員はハラスメント行為をしていたという指摘がある  
初期対応は非常に早く、議長が率先して動いたようだ。

一方で、前々からハラスメント行為の疑いがあったということなので、表面化するまで放置していた様子もある。

こういった記者会見前後の経緯が根絶条例という強い文言に繋がったと感じる。

表に出てこないが、関係者が気づいているハラスメント行為を、どう対策をとるのか。一つの抑制力として機能するハラスメント基本条例を、川越市から学んだ事例を含め、策定していかなければならない。

視察日

2022・11・16 午前

視察先

愛知県岩倉市議会

視察目的

議会活性化の取り組みについて

研修所感

三豊市の課題

市民の声の拾い方や反映の仕方

岩倉市からの学び

色々な団体と意見交換会をやることや、手続きに捉われないこと

感想

まず最初に、非常にオープンな議会だと感じた。

議会というのは、手続きやルールが一般社会より重視する特徴がある。

それによって、今必要な制度や予算なども、次の機会の審議にかけそして決定するケースが多い。

なので、先回りして物事を考えなければいけない。ただ、計画通りに進まない場合もあるので、その時は、非常に困る。

岩倉市の特徴は、柔軟性がある。

三豊市では、行われていない委員会の動画配信をはじめ、一般質問は、子供でも傍聴できる。

議会をできるだけオープンにする姿勢が窺える。

昨今、情報公開が色々な立場で言われているが、リスクを考えるあまり進まないのが現状だと思う。

岩倉市から感じた事は、あまり事をなす前の議論に捉われず、やってから修正をしていくというプロセス重視の姿勢だ。

議員定数が、15名というコンパクトさも、フットワークの軽さの起因になっているように思う。

ぜひ、三豊市も必要性のあるオープン化は実現するべきだ。

## 視察日程

2022・11・16 午後

## 視察先

三重県四日市市議会

## 視察目的

議会 ICT について

## 研修所感

三豊市の課題

議会の ICT 活用について

四日市市からの学び

一般質問の際、資料を議場で可視化している事

## 感想

三豊市市議会でも、導入が一部の議員から強く要請されている、一般質問での資料の可視化について、すでに導入している四日市市の話聞いた。

私も、定例会で4度の一般質問をする機会を頂いた。

通常一般質問は、執行部と議員が言葉でやりとりをして、運営される。

議場には、モニターが設置されているが、これは採決などの状況を伝えるために使用されていて、一般質問の間は、持ち時間の表示に使用されている。

一般質問は、執行部、議員、議会事務局、傍聴者、映像配信のカメラ、その視聴者など多数の立場の人間が見ている。

現在、言葉のやりとりだけで皆理解している状況だ。

そこに補完的な図や写真など見て分かるものがあれば、より一般質問の内容の理解を深めることができる。

私自身も、一般質問をする際、場面によって何度も「ここで図を見てもらえたら…」と思う瞬間があった。

三豊市市議会の場合、オペレーションの問題や、新たなモニターの設置など、課題もあるが議会の充実には不可欠ではないかと思う。

一つ一つ課題を解決しながら、実現させていきたい。